

NPO法人

志免地域支え合い互助基金

2020年度 会報誌

2021.6.1 発行

Vol. 3

2020年度 会報誌

理事長ごあいさつ 2
理事・推薦人紹介

活動のご紹介 3

2020年度活動 4
報告

2021年度運営 11
について

もう一度 みんなで繋がろう！

繋がれた絆も 鍛えてきた体力も 地域の為に力になろうと思うやる気も..

私たちはきっと勝つ！ きっとあの笑顔の日々が帰ってくる！

私たちは1人ではない 今こそ繋がり 復活に向け まとまろう！



このマークは、「志免地域支え合い互助基金のシンボルマークです」
原案を考えて下さったのは、2020年9月当時、志免中学校3年生だった宮島 煌さんです。

理事長 ごあいさつ 「千里の道も一歩から」



NPO法人 志免地域支え合い互助基金
理事長 **下稲葉 康之**
(社会医療法人栄光会 名誉会長・名誉ホスピス長)

今回の「コロナ」が、瞬間に、全世界を席卷する甚大な被害をもたらしています。その収束は依然として不透明で、なおしばらくは耐える覚悟が必要な状況です。

「コロナ」の影響を受け、当法人の活動も、残念ながら、本来の活動がほぼ休止状態となってしまいました。非常に残念な事でした。と同時に、今一度、当法人の理念と使命を再確認する機会でもあります。

今後、「超高齢・多死社会」の傾向がますます強まり、それに伴い、深刻な社会問題が起こってきています。経済的理由で介護保険さえも受けられない「介護難民」、年金が唯一の収入源で

他に支えがない「年金生活困窮者」、独居或いは夫婦で地域とは孤立している「孤独世帯」、人生最期の日々を誰にも看取られずに迎える「孤独死」、また、ひたむきに地域協働に励んで運営に苦勞している団体もあります。

このような課題は極めて重いテーマで、この小さい法人が立ち向かうことは、とても不可能です。と同時にまた、この難局に対峙して、とても拱手傍観出来ない・小さな事であっても手足を動かしたいとの素朴な動機で、小さな第一歩を踏み出したのでした。

この度のコロナ禍を前に戸惑ってはいますが、しかし、一念発起、思いも新たに初心に帰り共に励んで参りましょう。当法人の趣旨が多くの方々の賛同を得、やがて地域協働作業があちこちで展開され、そして全体が生き生きとした協働社会となることを望みつつ、その一助になるべく励んで参りましょう。

「千里の道も一歩から」、です。

理事紹介



副理事長 **宮本 陽子**
(福岡県民生委員・児童委員協議会 理事)

新型コロナと共に過ぎた2020年度。未だ予断の許さない状況です。

人と人が繋がりにくい状況の中、こんな時こそ！の想いで立ち上がった支え合いのプロジェクトに助成ができました。

このプロジェクトが志免町全域に広がるコトを願いつつ、2021年度も皆さんと共に「支え・支えられる」コトができる街づくりに努めて参ります。



監事 **藤 慎一郎**
(別府1町内会 会長)

人の痛みがわかる.. ということはど
ういうことなのか.. 自分が経験した
コトについては理解ができますが、それ以上のコト
はなかなかわからないことが多いものです。

コロナ下であって、日々健康でいるコトの難しさを痛感するいま、支え合いの精神で活動するNPO法人の存在は、私たちにとって、ある種の希望だと思っています。



理事 **渡邊 明**
(志免町シニアクラブ連合会 会計)

コロナ下で、「支え・支えられる」の広報啓発活動をどの様に行うか？に苦心した2020年度。みんなで話し合い、志免町の未来を支える中学生達に「志免地域支え合い互助基金シンボルマーク」を考えて頂き、志免町を想う素晴らしい作品と出会う事ができました。今年度は、このマークと共に広報啓発活動をおこなっていきます。

推薦人紹介

～私たちの活動趣旨に賛同し応援して下さる方々です～

中村学園大学 中村学園大学短期大学部

学長 (前 九州大学 総長)

株式会社 西日本新聞社 編集局総務

株式会社 西日本シティ銀行 頭取

粕屋医師会 会長

志免町社会福祉協議会 前会長

志免町シニアクラブ連合会 前会長

久保 千春 先生

田川 大介 氏

谷川 浩道 氏

松尾 喬之 先生

森内 平 氏

山田 喜一郎 氏

(芳名五十音順)

設立趣意

住民の方と専門職が協働し、地域で支え合う互助の文化をつくろう!

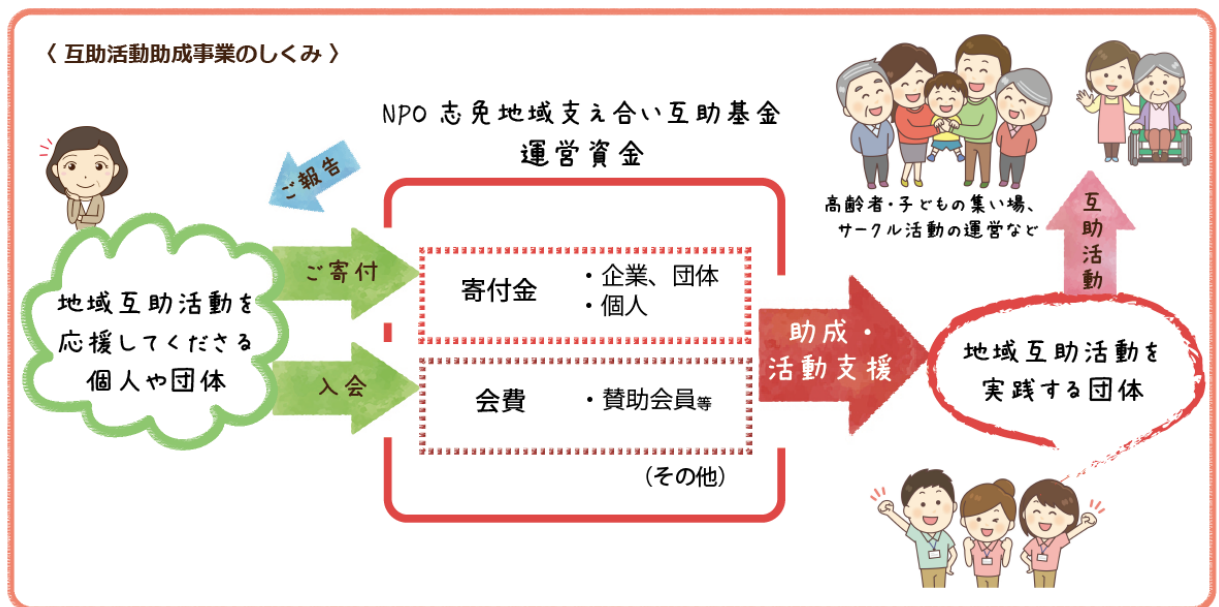
事業目的

この時代、これからの時代に、高齢者の方々や生活困窮の方々の生活を支え、安心してこの町で暮らすことができるようになるには、自助・共助・公助だけでは難しい。やはり、ここに住民同士や住民と専門職等が協働する「互助」の仕組みが必要不可欠です。

私達は、地域で困っている方々を『ほっとけない』想いで支える活動をしている互助団体を継続的に支援できる仕組みを確立し、住み慣れた場所で人生最期まで安心して暮らせる町づくりに貢献することを目的に活動しています。

事業概要

1. 互助活動助成事業：地域で互助活動をおこなっている団体へ助成をおこない、互助活動の推進・継続を支援します
2. 広報啓発事業：私たちの活動を広く知って頂きご支援いただくために機関誌の発行やセミナー活動など、さまざまな広報活動を行います
3. 互助活動コーディネート事業：私たちの活動が橋渡し役となり、互助活動に携わる人と人、活動と活動をつなぎ、支援の輪が広がることを目指します



法人概要

名称 特定非営利活動法人 志免地域支え合い互助基金

設立年月日 平成30年6月8日

理事長 下稲葉 康之

URL <https://shimekikin.jimdofree.com/>

住所 〒811-2205 福岡県糟屋郡志免町別府2-2-1 医療介護施設かめやま内

TEL 092(692)1512

メールアドレス shimekikin@gmail.com

1

チーム田中屋

《団体紹介》 チーム田中屋

「チーム田中屋」は、東日本大震災をきっかけにして結成された災害支援を中心とした民間団体です。志免町にある有限会社田中屋の社長を筆頭に、人間にとって最も大切な温かい心をもった仲間が集い、自分たちにできることは何か模索し、災害が起こると具体的な支援活動を継続して行っています。東日本大震災、熊本大分地震、近年の豪雨災害などで支援活動をしています。ボランティアです。

支援活動内容は主に食糧支援、物資支援が多く、現地と連絡調整し、衛生管理の下、炊き出しを行ったり、事前に仲間と共に集めた生活用品等の物資を配布したりしています。時には災害によって汚れてしまった家の中の泥かきをしたり、家の中から被災した荷物を運び出したりすることもあります。

また、熊本大分地震により甚大な被害を受けた熊本県阿蘇郡西原村の「子どもたちを笑顔にしたい!」と夏休みに福岡の海へ無料招待する活動もしています。マイクロバスで送迎し、海の家でBBQをしたり、一緒に遊んだりして思い出づくりもしています(新型コロナ禍前)。当日の写真をアルバムにし参加者に配布しています。子どもたちの笑顔が、大人の笑顔にも繋がっています。

災害は起きてほしくありません。これ以上傷つく姿を見たくありません。しかし、災害がきっかけとして、人の温かさの絆を感じているのも事実です。今後も「チーム田中屋」は一丸となって、必要に応じて支援活動に取り組んで参ります。ご支援・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

LOVE FOR KYUSHU!

《助成理由》

コロナ渦でも被災地支援を行ったチーム田中屋さんに、以下の様な理由により助成をさせて頂きました。

- ①九州は1つという考え方のもと、自然災害により困難に陥った地域や人を支援をするために活動しており、その熱心な活動や人数の多さ故、被災地からは志免町のチーム田中屋として信頼されている。
- ②このチームは、志免町住民を核に、多世代や他地域の方も交えて活動している。
- ③自然災害はどの地域でも起きる。志免町でもいつ起きるかわからない。災害支援ネットワークを有する当チームが志免町にある事は、志免町住民である私達も心強い。

《助成金額》

120,000円



2

王子ふくしのまちプロジェクト

《団体紹介》 王子ふくしのまちプロジェクト

王子八幡町内会は、志免町の西部に位置し、福岡市と隣接し、分譲住宅地として開発された住宅街です。

同時期に家を建て引っ越してきた方々が多く住んでいるため、徐々に高齢化率が上昇してきました。

昭和42年に発足し今年で54年を迎えます。今年の4月1日現在、692世帯、1,690名が暮らしています。数年前に「高齢者の見守りネットワーク」づくりを行い、徐々に増える単身高齢者や老老世帯の方々が、どうすれば住み慣れたこの町内会にいつまでも安心して暮らす事ができるか?を模索するなか、志免町社会福祉協議会の協力のもと、令和元年に要援護者を対象とした生活支援ニーズの調査を実施しました。以後、その調査結果を踏まえ、事務局での会合を継続し誕生したのが「王子ふくしのまちプロジェクト及びサポート隊」です。

この活動は、町内会活動の一貫ではなく、独自の活動として起ち上げました。特徴としては、30代～40代の方がサポート隊の約70%を占めることです。

《助成理由》

以下の様な理由により助成をさせて頂きました。

- 持ち家率の高い王子八幡町内会。これからの時代、どのようにすれば住み慣れたこの町内会に、いつまでも安心して暮らす事ができるか?を本気で模索している。
- 約1年間、アンケート調査を2度行い、事務局で協議をしながら意思統一を積み重ねている。
- サポート隊の年齢構成が、30代～40代のメンバーで約70%であり、継続性を感じる。
- この活動趣旨と仕組みが、当法人の模索する趣旨に沿う内容であった。

《助成金額》

45,000円

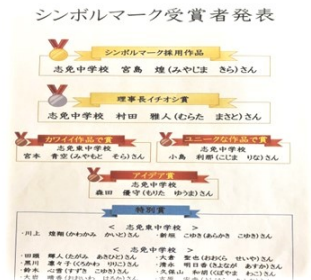
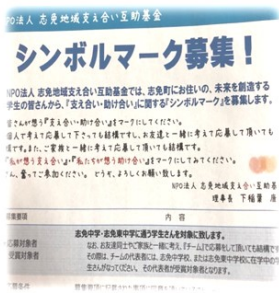


1

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、2度の緊急事態宣言が発令される中での活動となり、行動自粛生活により巣ごもりを余儀なくされた。その中で、どのようにして広報啓発事業を推進するか？を、行動しながら考える年度になりました。

- NPO法人志免地域支え合い互助基金の「支え合いシンボルマーク」をつくる活動を行う。
2020年9月1日～30日、志免中学校、志免東中学校に対し「志免地域支え合い互助基金支え合いシンボルマーク」の募集を行いました。両校ともに美術の授業で取り上げて下さり、800通の応募を頂きました。
- このマークを「缶バッジ」にし、中学生及び会員の皆様等にお配りし、広報活動を続けています。

広報啓発事業



2021年度は、企業さんと協働事業行いながら、広報啓発事業を継続的に行っていきます。

- 「2019年会報誌」「支え合い新聞」の発刊
2020年度の6月に会報誌を発行しました。また、9月より「支え合い新聞」の発刊を新規で開始しました。年度内に3号の発刊を致しました。会報誌及び新聞は、ホームページ上からいつでも読む事が出来ます。



2

2020年度に行いましたシンボルマークの募集活動とマーク決定後の缶バッジ化した際の模様をご紹介します。

- 2020年9月、シンボルマークの募集を、志免中学校様、志免東中学校様にさせて頂きました。両校とも趣旨をご理解いただき、両校の生徒さんが一所懸命に考えて下さり、800名の方よりご応募頂きました。

【作品を絞り込んでいる風景です】

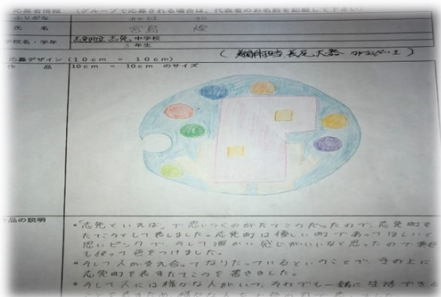


シンボルマーク受賞者発表

シンボルマーク採用作品 志免中学校 宮島 煌(みやじま さら)さん	
理事長イチオシ賞 志免中学校 村田 雅人(むらた まさと)さん	
カワイイ作品で賞 志免東中学校 宮本 青空(みやもと そら)さん	クールな作品で賞 志免中学校 小島 利那(こじま りな)さん
男子力賞 志免中学校 森田 優守(もりた ゆうま)さん	
特別賞	
・川上 雄剛(かわかみ かいと)さん ・田原 輝人(たがみ あきひと)さん ・黒川 凛々子(くろかわ りんりこ)さん ・鈴木 心音(すずき こころ)さん ・大岩 唯香(おおいわ ゆいか)さん	< 志免東中学校 > ・新堀 ことき(あらかき こゆき)さん < 志免中学校 > ・大倉 聖也(おおいわ せいや)さん ・清水 明日香(しみず あすか)さん ・久保山 和明(くぼやま わか)さん ・吉原 愛南(よしはら あんな)さん

シンボルマークと缶バッジ事業

【シンボルマークに選ばれた作品の原案とデジタル作品】



【両校で行った授賞式】



3

2019年度から始まった「支援自動販売機」事業ですが、今年度も多くの皆さまにご協力を頂きました。お陰様で、9ヶ所に設置をして頂き、多くのご寄付を頂きました。この場を借りまして御礼を申し上げます。

【ご支援を頂いている皆さま】

(有)田中屋 代表 田中清昭さま



HearSalon NAKAO 代表 中尾浩二さま



支援
自動
販売
機

しめ寿司 料理長 佐々木竜二さま



飯田工務店 代表取締役 小山田義人さま



株式会社 進明技興 代表 谷清昭さま



株式会社K's物流サービス 代表 久保大輔さま



株式会社 西日本シティ銀行 志免連合店
支店長 木下克彦さま



株式会社 ゼンケン 代表 伴 善弘さま



社会医療法人 栄光会 理事長 青戸雄司さま



コカ・コーラボトラーズジャパン(株)
ベンディング博多支店
支店長 稲益一生さま



3) 互助活動コーディネーター事業

1

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、平時の時に開催されていた「うきうきルーム」等、公民館を使つての集い場が中止を余儀なくされた。その結果、自宅で過ごす時間が多くなり、俗にいうコロナフレイルという現象が発生しているとの相談がある町内会からあった。

そこで、今こそ住民と専門職が協働し、この緊急時を乗り越える時と判断。社会医療法人栄光会の地域協働部に対し、これらの協働実験に協力して頂く事を要請。栄光会が快諾され実験を行った。

【協働実験の目的】

- 一連の協働実験から、住民と専門職がどのようにして協働をしていけば継続的に第三層での互助活動ができるか?を把握する。

【協働実験の概要】

- 理学療法士2名が講師役となり、公民館で3週にわたり1時間程度の集い場を実施。
- 送迎に慣れた運転手による送迎も実施。
- 集い場では、最初と最後にアンケート調査・回想・体操&ストレッチ・体力測定・体の筋肉量等の把握を行い、コロナ感染予防対策を充分に行つて実施。
- 参加者は、町内会長さんが気になっている住民の方4名。
- 対象者には、事前に実験であることを説明し、納得の上で参加をして頂いた。



【協働実験の結果】

- 参加者の心身等の把握をさせて頂き、各人の数値及びレポートを作成し、町内会長に報告を行った。
 - ①住民同士では知り得ないその方の事を、専門職と協働する事でより理解がすすんだ。
 - ②より理解する事ができた結果、住民と専門職が協働する事で、町内会内での支え合い活動ができるのではないか?という可能性を感じた。
 - ③住民と専門職が継続的に協働し、互助の仕組みをつくりながら互助活動を行う為には、定期的に相談等ができる場をつくる必要がある。
 - ④その際に専門職の方等への経費負担をどうするか?を含めた仕組みづくりが必要である。
- という前向きな意見を得た。この結果を踏まえ、2021年度に於いては、この仕組みづくりにチャレンジし、互助・支え合いの仕組みづくりに貢献していきたい。

4) 2020年度 賛助会員・寄付の状況

2020年度に頂きました、ご寄付及び賛助会員数と金額について
ご報告をさせていただきます。

〈ご寄付及び賛助会員総数〉

94名	ご寄付及び会費総額	878,000円
(個人) 73名	寄付金額	462,000円
(法人・団体) 21 法人・団体	寄付金額	416,000円

〈支援自動販売機 設置について〉

2021年3月末現在 設置して頂いている台数 8カ所・9台

2020年度にご支援を頂きました金額 135,961円

2020年度も、多くの個人・法人・団体の皆様方のご理解とご協力により、
多くの資金をお預かりさせて頂くことができました。

感謝



ありがとうございました。

目標にしております「認定NPO法人化」への道のりはまだまだありますが、
出来る限り多くの皆さまに互助・支え合い活動の必要性を発信し、
互助・支え合い活動が生まれ、その活動を支えていけるために役立てるようしておきたいと思っています。

団塊の世代の方、団塊ジュニア世代の方が高齢者になり、誰かの助けが必要になった時、
この支え合い活動がなければ、本当に困る人が多く出てくると考えられます。

志免町の場合は、40代の人口が一番多く、この団塊ジュニア世代が多い町です。これから高齢者が多くなり
財源が必要になります。そのこれからの時代に、誰がその高齢者のお世話をし、どこから財源を調達してくるのか？
今から真剣に考え、準備をしていないと志免町の多くの方が困ることになるかもしれないと考えています。

だからこそ、今からその準備を始め、少しでも不安事項をなくし、安心して生活できる状況をつくっておきたい。

私たちNPO法人志免地域支え合い互助基金は、この志免町が、支え合い活動があるから住みやすい..と
住民の皆さんが思うような町になって欲しい。そう願っています。

そうなれるよう、2021年度もコツコツと継続的にがんばっていきます。

< 2021年度 運営について >

以下、2021年度の運営についてご説明をさせていただきます。

- 1) **スタッフ構成** 2020年度と同じメンバーで運営をする予定です。
今後の志免町を担う団塊ジュニア世代である40代の方に、この活動に参画をして頂きたいと想っています。その方々が参加する運営を心掛けたいと考えています。

- 2) **助成対象者 及び 助成エリア**
 - 助成対象者 : 志免町に住民票や本拠地がある個人・団体。
 - 助成エリア : 志免町全域。

- 3) **各目標について**

①認定NPO法人格の取得	目指して活動をしています。
②寄付金受入目標額	1,750,000円
③賛助会員目標数	130(個人・法人・団体 含む)
④支援自動販売機設置目標数	合計 15台
⑤企業との共同事業	3事案
⑥支え合い新聞	部数目標 500部 / 新聞部の創設

- 4) **各事業の目標**
 - 互助活動助成事業
 - ・年間20,000円～年間300,000円上限の助成という枠で、年間1,500,000円の助成を目標にしています。
 - ・この内、特定目的の助成は以下のとおりです。
 - 「やさしい声かけ訓練」への助成
 - 「生きる力支援推進会議」への助成

 - 広報啓発事業
 - ・2020年 会報誌の発行。
 - ・支え合い新聞 年4回の発行 及び 新聞部の設立。
 - ・支え合いシンボルマークを活用した地元企業様との協働事業。
 - ・SNSを活用し、志免町内外への広報啓発活動。

 - 互助活動コーディネート事業
 - ・「やさしい声かけ訓練」を各町内会さんに実施をして頂く為の活動。
 - ・生活支援活動を行う団体をサポートする活動。
 - ・「生きる力支援推進会議」を継続開催する為のコーディネート活動。
 - ・「生きる力支援推進会議」を町全体で行う為のコーディネート活動。

NPO法人

志免地域 支え合い互助基金

NPO法人 志免地域支え合い互助基金

〒811-2205

福岡県糟屋郡志免町別府2-2-1
医療介護施設かめやま内

電話 : 092-692-1512

FAX: 092-937-6141

E-mail: shimekikin@gmail.com

Web サイトもご覧ください

<https://shimekikin.jimdofree.com/>

ご寄付のお願い および 賛助会員募集のご案内

皆さまから寄せられるご寄付、賛助会費により
地域の互助活動を支援します！



NPO法人志免地域支え合い互助基金では、
活動を支援するためにご寄付くださる方、また
活動趣旨にご賛同頂ける賛助会員の方を募集しています。

ご寄付

※専用の振込用紙、および賛助会員申込書は
事務局よりお送りいたします。

法人・個人を問わず任意の額で結構でございます。

※寄付金の取扱いについて

- 個人(個人事業主)が寄付された場合
本寄付金は、寄付金控除の対象とはなりません。
- 会社・法人が寄付された場合
法人が他の会社・法人に寄付した場合と同様の取扱いとなります。
一般寄付金として当該会計年度の損金算入限度額の範囲内で
損金処理が可能です。

当法人は、税法上の優遇措置が適応される「認定 NPO 法人」の取得を目指しています。

賛助会員

【入会金・年会費について】

	入会金	年会費
賛助会員 (個人)	0円	3,000円
(団体)	0円	10,000円

【申込方法】

- ①「賛助会員申込書」にご記入の上、事務局まで Faxまたはご郵送にてお届けください。
- ②年会費をお振込ください。

ご寄付・会費の振込口座について

トクヒシメチイキササエアイゴジョキキン
口座名義： 特定非営利活動法人志免地域支え合い互助基金

西日本シティ銀行 博多支店【店番 217】(普通) No.3116590
福岡銀行 志免支店【店番 236】(普通) No.1770312
ゆうちょ銀行振替口座 01730-7-147585 (代表者名等なし)

支援自動販売機 及び 設置者紹介 のお願い



左の写真のような
自動販売機を
設置しても良いと
言われる方を
募集しています。
皆さん、どうぞよろしく
お願いします。

編集後記

新型・変異型のコロナウィルス感染拡大の
渦から抜け出ることの出来ない社会。

その結果、急速に人の考えや生活が変わり、
社会の仕組み自体にも変化が出ています。

そのスピードについていけない方、自粛自粛で
引きこもりがちになっている方、体力がおちた方、
そして、気分のすぐれない方が増えています。

今こそ、こういう状況の時こそ『支え合う・互助』
が必要であり、人の持つ愛・エネルギーの力で人を
支える重要性を感じます。

この2021年度は、今こそ行動する時なり！
と鼓舞しつつ、行動あるのみ！で前進する所存
です。皆さん、共に未来の為にがんばりましょう！

(NPO法人志免地域支え合い互助基金 事務局)